

かわむら **こども** クリニック NEWS

Volume 7 No 03

6 8 号

平成11年 3月 1日

発行 かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.ifnet.or.jp/kazu.k/>

脳死移植を考える

院長

さて臓器移植法が確定されて、初めての脳死移植が行われようとしています。今回は、脳死移植について考えてみましょう。

この問題には大きく分けて2つの問題が潜んでいます。他人の臓器で生命を得ること、人間の死を何によって判断するか2つの問題です。

どうして日本での移植医療が遅れたのでしょうか。いくつかの理由があると思いますが、今から30年前札幌医大で行われた心臓移植がその理由の一つになっていることは確かです。移植の適応があったのかなど、疑問が十分に解明されていません。この疑問を、今考えても仕方ありません。今まに行われようとしている事実を大切にしたいと思います。他に人の臓器をもらってまで、生きる必要はないと思っている日本人の国民性や宗教など様々な問題も関係していることでしょう。

他人の臓器をもらってまで、生命を得ることはどう考えたいのでしょうか。これには臓器をもらう人と、臓器をあげる人について考えなければなりません。我が子の命を助けるために移植しかなければ、移植を望むと思うのが一般的な親でしょう。しかし自分の子供の臓器を他人にあげることは、誰もいやなことでしょう。このギャップが大きな問題なのです。アメリカでは臓器移植を、「命の贈り物」と呼ばれています。臓器を提供した家族も、臓器を頂いた人とともに人生を歩んでいくと喜ばれているようです。

もう一つ大切なことは、人の死の判定です。脳死は、呼吸などを司る脳幹始め脳全体が全く反応しなくなった状態を呼ぶのです。このような状態では、いずれ心臓は停止（従来からの一般的な死の定義）してしまうのです。心臓が止まってからの移植は成功率が低く、特に心臓や肺の場合には速やかな移植が必要になるのです。脳死の状態は呼吸はありませんが体温もあり、まるで生きているのと変わ

らないように見えるのです。従来の考え方からは、これを死と受け入れることはなかなか難しいことかもしれません。脳死は人の死なのでしょう。医学的な一般常識とすれば、体温があつてまるで生きているように見えても、脳死は必ず死に至る状態と考え



られているのです。ここで大きな問題は、脳死の判定ということになります。30年前の疑惑もあり、1昨年制定された臓器移植法の中では、脳死の判定基準がしっかり決まっています。この基準は世界でもっとも厳しいもので、さらに6時間後にもう一度判定するというものです。第三者による客観的な厳しい判定がなされることが、患者さんや国民の理解を得られるもっとも大切なことかもしれません。

今回の状況で、別な意味で気になったのは、マスコミの対応です。この大きなマスコミという大きな力の前では、一個人は全くの無力ということです。今回の提供者は、移植法施行以来初めての例という大きなプレッシャーがあったはずですが、本当に勇気のある家族の皆さんだと思います。個人のプライバシーは、しっかり守られるべきものなのです。マスコミにとって大ニュースかもしれませんが、この家族の大きな決断は歴史上意義ある第一歩なのです。マスコミの対応が、これからの提供者に悪影響を与えることを危惧しています。

この記事から、臓器を提供してくださいとか、意思表示カードを持ちなさいとか言うものではありません。この機会に人の死について、臓器の移植について考える材料になればと思っています。この移植が成功し、皆さんの理解を得られるようになって欲しいと思っています。（199902/28 AM）

地域振興券についてのお知らせ

当院でも地域振興券が使えます。ただし仙台市からの要請もあり、釣り銭を出すことはできません。端数は現金でお願いいたします。

午後臨時休診のお知らせ

3月20日（土）～21日（日）は、東京で保険医団体連合の会議が開催されます。出席のため3月20日（土）は、午後休診となります。ご理解の上ご協力お願いいたします。

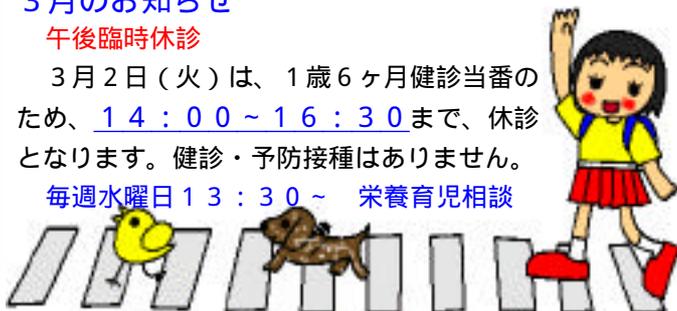
看護婦の明石君が、一身上の都合により突然退職となりました。ご迷惑をおかけしますが、しばらくの間ご了承ください。

3月のお知らせ

午後臨時休診

3月2日（火）は、1歳6ヶ月健診当番のため、14:00～16:30まで、休診となります。健診・予防接種はありません。

毎週水曜日13:30～ 栄養育児相談



読者の広場

最近インターネットも定着し、お母さん方から投書（電子メール）を頂くことも多くなりました。先月頂いたメールを紹介します。

「川村先生毎日の診療ご苦労さまです。先月インフルエンザでお世話になったHとMの親です。おかげさまで2人ともすっかり元気になりました。家族中で高熱を出し、4ヶ月のMまで咳き込んでいた2週間、毎日のように通院し子供達ばかりでなく、母親まで点滴を受ける始末でした。本当に先生が頼りでした。特に、Hがけいれんを起こし救急車で運ばれた際には先生の御顔を見た途端、安心して涙が出てしまいました。忙しい看護婦さんたちもとても親切にしてください、感謝しています。これからもお世話になるとは思いますがどうぞよろしくお願い致します。とりあえずお礼まで。追伸：来年は予防接種を受けようと思っています。HPを楽しく拝見いたしております。これからも役立つ情報を提供してください。」「先日は、親子共々面倒をみて頂き、ありがとうございました。お蔭様で、無事東京に行ってまいりました。結局、仕事が目的だった事もあり、遊ばずに帰ってきました。先日、Dの1歳6ヶ月健診に行って来ました。虫歯も無く、安心しましたが！！「臍ヘルニアです。」と言われてしまいました。でべそだな～とは思っていたんですが、ず～っと前に（私もいつの事だったか忘れましたが）先生にご相談した所、「今の時期は心配ナシ」とおっしゃって下さったような気がするのですが。そろそろ気にした方が良いでしょうか？だからといって、へこます方法なんてあるのでしょうか。健診の時の先生には「昔はね～10円玉はって、ばんそこうしたのよ～」と言われました。「えっ!？」と言ったら、「今は、衛生上ダメみたいね。」だそうです。ちょっと、10円玉効果は期待が薄そうなので、やめておきます。結局、でべそって見た目に問題があるだけで、何も支障はないのでしょうか？それとも、ヘルニアとかになりやすいのでしょうか？そろそろ、3種混合の追加に何う予定なので、その時にでも、またご相談します。M・Hでした。」「今日は、友達のうちで先生のホームページを見ました。いつも先生と看護婦さんには、大変お世話になって心から感謝しています。Rが、嘔吐下痢症になって初めて先生のところに行ったときには、すぐ点滴と言われて驚きましたが、先生のやさしいことばとすばらしい処置で大変感激しました。自家中毒にかかったときは一週間毎日点滴で、心配しましたが、治ったときに先生が私に“よく頑張ったね！。お母さんが私の言うことを素直に聞いて頑張ったから、お母さんがなおして上げたんだよ！”と言われたときは涙が出そうでした。あんなに泣いてたRもMも、今では先生が大好きで病院に行くのを喜んでいます。いつも、忙しいのに3人に色々楽しく話をさせていただいて、心から感謝しています。大変な病気にかかった事も、辛い思い出ではなくて色々な事を勉強させてもらえたと思えるのも先生のおかげです。これからも、3人色々な病気にかかると思いますが、よろしくお願い致します。毎日忙しくて大変ですが、体に気をつけて頑張ってください。先生の、大ファンのY・Mより。」（メールは一部省略してあります）ありがとうございました。電子メールも含め、投書大歓迎です。

2月27日（土）東北放送（テレビ）の「週間パパラビゾーレ」の“現代お医者さん事情”というコーナーで、院長の談話も含め、当院が紹介されました。取材当日の患者さんも映っていました。ご感想など戴ければと思っています。

本年度最後の「お母さんクラブ」が、[3月18日（木）福沢市民センター](#)であります。1年の締めくくりなので、[いくつか趣向](#)も用意してあります。奮ってご参加、お願いいたします。

インフルエンザも一段落して少し落ち着いていました。水痘は相変わらず多く、流行中です。ウイルス性発疹症も少し多く見られました。しかし下旬になってB型と思われるインフルエンザと嘔吐下痢症が増えてきています。インフルエンザに関しては、油断はできない状態です。

2月の感染症の集計



ポリオ予防接種のお知らせ

4月中旬にポリオの予防接種があります。対象者は次の通りです。予定を立てておきましょう。詳しい日程表は、対象者には配付しています。（来月号に載せます）

第1回 平成10年7月1日～12月31日生れの児

第2回 平成10年10月に1回目の投与を受けた児

その他 投与を延期していた90ヶ月までの児

院長は、[4月20日（火）青葉区保健福祉センター](#)が、**接種担当**です。都合のつく方は、当日おいで下さい。他の区や住所でも、当日予防接種が受けられます。会場で待っています。

編集後記

今年の2月は、子供にはインフルエンザも流行せずに、平穏な一月でした。でも息子の高校受験もあり、何となくせわしない一月でもありました。下旬になってまたインフルエンザが目立ち始め、嘔吐下痢症もあり、毎日点滴の林です(?)また忙しくなりそうです。字数が多くて読みにくくなって、ごめんなさい。

